

社会貢献活動



社会貢献活動の考え方・指針

住文化の向上

- ▶ 住まいづくりの教室「すまい塾」の開催
- ▶ 「生活リテラシーブック」の発刊
- ▶ 調査・研究テーマの発信「view point」の発行
- ▶ 住まいの図書館
- ▶ 出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」
- ▶ 「住み継がれる家の価値」冊子発行への協力

次世代育成

- ▶ 総合住宅研究所の教育貢献活動
- ▶ 体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」
- ▶ 各地の教育貢献
- ▶ インターンシップの実施
- ▶ 「地球にやさしい住生活デザインコンペ」の開催
- ▶ 環境教育プログラムの実施

環境配慮

- ▶ 新梅田シティ「新・里山」での教育貢献
- ▶ 「企業の森」制度への参加
- ▶ 清掃活動
- ▶ 「100万人のキャンドルナイト」への参加
- ▶ 「5本の樹」計画を生かした地域貢献活動
- ▶ 埼玉県「みどり川」の再生」活動に参加

社会への啓発活動

- ▶ 防災意識の啓発
- ▶ 災害時における地域との協働
- ▶ 防犯教育と意識啓発

障がい者の自立支援

- ▶ セルブ製品の販売協力、ノベルティ採用
- ▶ 障害者週間行事への参画

NPO・NGOとの協働

- ▶ NPO・NGOとの協働
- ▶ 社会起業家をめざす若者の支援—「edge」への協賛
- ▶ NPO「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」への協力

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

チャリティ・義援金・ボランティア

- ▶ 災害義援金
- ▶ チャリティフリーマーケットの実施
- ▶ こどもの日チャリティイベントへの協力
- ▶ 各地へ広がる収集ボランティア
- ▶ 地域イベントの支援
- ▶ 多彩な国際交流イベントの開催

社会貢献活動社長表彰

■ 社会貢献活動の考え方・指針

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。

企業理念の根幹哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けています。

■ 積水ハウスの社会貢献活動の概要



関連項目 [社会貢献活動](#)

■ 住まいづくりの教室「すまい塾」の開催

体験や実例見学ができる「こだわり講座」、プロの講師が講演する「公開講座」にはこれまでに1万人以上が参加しています

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、住まいと暮らしについて学習する「すまい塾」を開設しています。

「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「わかる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。すまい塾には「こだわり講座」と「公開講座」の2つがあり、関心をお持ちの方はどなたでも受講いただけます。

「こだわり講座」には、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を学ぶ「基礎コース」(全8回/4カ月)と、基礎コースで得た知識をふまえて「わが家ならではの理想の住まい」を探るプランニング体験にチャレンジする「専科コース」(全4回/2カ月)があります。講師は各分野の専門家である当社従業員。「公開講座」は、総合住宅研究所 納得工房で毎月1度開講する無料の市民講座。住まいと暮らしに関わりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社外から招き、講演形式で実施しています。2011年1月までの累計受講者数は、「こだわり講座」が667人、「公開講座」が1万4810人でした。



こだわり講座「照明計画」講義風景
納得工房の体験学習を中心に、住まいについて幅広く楽しく学んで頂き、正しい知識を身につけて頂くことができます。



第202回「食卓を囲んで」～キッチン空間と食の関わり～
公開講座は、住まいと暮らしに関わりのある多彩なテーマを取り上げる無料の市民講座です。

関連リンク

- [▶ 納得工房すまい塾こだわり講座](#)
- [▶ 納得工房すまい塾公開講座](#)

「すまい塾」の全国への広がり「Webすまい塾」

多くの方に受講していただくため、事業所(支店)やインターネットで展開しています

また、納得工房で開催している「こだわり講座」をアレンジした「すまい塾」を全国の事業所で展開しています。2010年度は42事業所で741人の方が受講し、2011年1月までの累計受講者数は6090人となりました。

関連リンク

- [▶ Webすまい塾「受講生の声」](#)

また、インターネットを活用した住まいづくりの学習プログラム「Webすまい塾」では、住まいづくりの楽しさを多くの皆様にご存知いただくことを目指して、全6レッスンと3つのスペシャルレッスンから構成される充実したカリキュラムをご用意しています。好きな時に、繰り返し学習できるWebならではのメリットを活かし、自分のペースで学んでいただけるeラーニングシステムとしてご好評いただいています。「Webすまい塾」は登録・受講料は無料です。理解度を課題を行うことでチェックする事もできます。

2010年度は、インテリアコーディネートの知識が子どもにもわかりやすく学んでいただけ、コツを伝授することによりお片付けが楽しくなる「Special Lesson 子どものためのインテリアレッスン」を新たに加え、さらに内容も充実させました。「Webすまい塾」は、開設(2008年4月)から2011年1月までの累計申し込み数が1787件となりました。

■ Webすまい塾のカリキュラム

LESSON1	入門編
LESSON2	キッチン編
LESSON3	性能・構造編
LESSON4	収納編
LESSON5	インテリア編
LESSON6	ファイナンスプラン編
Special Lesson	自然環境・エクステリア編～日本の樹を住まいに～
Special Lesson	自然とつながる涼しい暮らし
Special Lesson	子どものためのインテリアレッスン



動画中心のカリキュラムを、無料で受講頂くことができます。

関連リンク [▶ Webすまい塾 修了生インタビュー](#)

■ 「すまい塾」受講者数

	こだわり講座	公開講座	事業所版すまい塾	Webすまい塾
2008年度	47人	825人	1,241人	561人
2009年度	57人	966人	943人	760人
2010年度	54人	730人	741人	466人

※ 「Webすまい塾」は受講申込件数

関連項目 [▶ 社会性目標と実績\(P.424\)](#)
[▶ 社会貢献活動\(P.169\)](#)

関連リンク [▶ すまい塾ホームページ](#) (受講をお申込み頂くことができます)

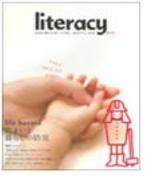
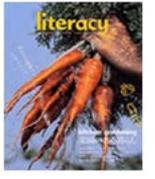
■「生活リテラシーブック」の発刊

「防災」「眠り」「菜園」「ペット」など独自のテーマで、生活リテラシーの向上を追求しています

住まいに関するノウハウを、広く社会の皆様を提供するため、「自分流の豊かさを見つける才能」を基本テーマとする、当社オリジナルの「生活リテラシーBOOK」を2004年9月から発刊しています。OECD（経済協力開発機構）の拡大した定義によれば、「リテラシー」とは「生きるために必要な知識・技能・教養」。当社はこれに「生活」というキーワードを加え「生活リテラシー」という新しい概念を作りました。この言葉には、「暮らしと住まいをより豊かにする“力” “知識” “教養” “ノウハウ”」などの意味を込めています。

最新の第5号は「子どもの生きる力を育む家」をテーマに、子どもは育った家を忘れない。一緒に過ごした時間を忘れない。「子どもの生きる力」をはぐくむための住まいの提案やヒントが満載の1冊となっています。

今後も、当社独自のテーマを設定し、「生活リテラシー」を追求していきます。なお発行部数は約1万部で、当社のホームページからご購入いただけます。

				
life hazard「住まいと暮らしの防災」	good sleep「すこやかな眠り」	kitchen gardening「菜園のある暮らし」	living with pet「生きものと暮らす」	子どもの生きる力を育む家

「サステイナビリティレポート2011」のアンケートにご回答頂いた方には、お好きな冊子を一冊プレゼント致します。

[アンケートはこちら](#)

関連リンク [▶ 納得工房 図書コーナー](#) (こちらよりご購入頂くことができます)

住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポートを発信しています

当社総合住宅研究所 納得工房では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組み、多彩な角度からの調査・研究によって得られた成果をもとに、住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート「view point」を発信しています。

これまでに以下のテーマで第5号まで発刊し、情報の提供、設計提案や設計・対策事例の紹介をしました。

2010年度は、Vol.5「空気環境に配慮した暮らし」を発刊。一般生活者を対象に行った空気環境に関するアンケート調査の結果から明らかになった、空気環境に関する生活者の実態や、当社がこれまで培ってきた独自の空気環境における研究と合わせて、室内空気に配慮した健康な生活を営むための方策についてご紹介しています。

今後も、積水ハウスでは、総合住宅研究所においてこれまで実施してきた多分野に渡る調査・研究によって得られた蓄積データをもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートや冊子にまとめ、定期的に発信してまいります。

 vol.05 「空気環境に配慮した暮らし」～“空気の質”にこだわる～

 vol.04 「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～

 vol.03 「イマドキの共働き家庭」～スムーズ家事で家族時間と自分時間～

 vol.02 「“子育て”設計レポート」～子どもの学びを考えた居どころ提案～

 vol.01 「ペットとの暮らしと住まい」～飼い主とペットの関係～

住まいや暮らしの書籍をそろえ、住文化発信の拠点にしています

当社総合住宅研究所(京都府木津川市)にある「住まいの図書館」は、住まいや暮らしに関する書籍や雑誌を多数収集し、住文化を発信する拠点となっています。蔵書は1万冊を超え、家を建てる時に役立つ実用本から、住まいの歴史、インテリアデザイン、ユニバーサルデザイン関連の書籍、建築家の作品集やエッセイにいたるまで幅広く取り揃えています。当社が開校する「すまい塾」塾生の皆様を中心にご利用いただいています。



住まいの図書館(総合住宅研究所)

■ 出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」

『住まい学大系』第1期100巻を刊行し、2006年から第2期を発刊しています

「株式会社住まいの図書館」は、出版活動を主な事業目的として1986年2月に設立されました。成熟期を迎えつつあった住宅産業がモノ中心の事業活動から文化面へのアプローチを始めようとしていた時期に、時代を先取りする企業活動の新しい展開としてスタートさせたものです。

設立時から「住まい学大系」の刊行を開始し、1999年までに第1期100巻を発刊しました（「住まいの図書館出版局」発行）。生活者の柔軟な発想と、建築家や研究者の成果が交差する読み物として多くの読者に親しまれ、いずれも版を重ねています。

2003年、全巻の編集長を務めた植田実氏が建築学会賞文化賞を受賞したことを機に出版再開を望む多数の声が寄せられ、2006年からは「住まい学大系」第2期の刊行を開始しました。第101巻として、建築学界の第一人者である鈴木成文氏の「五一〇白書 私の建築計画学戦後史」を2006年11月に発刊し、2009年3月には第102巻「中廊下の住宅～明治大正昭和の暮らしを間取りに読む」を発刊しました。

長年、当社が蓄積してきたさまざまな研究成果を中心に、関連分野で活躍する多くの識者・研究者の協力を得ながら、今後も出版事業を通じて情報交流・情報発信の役割を担っていきたいと考えます。

関連リンク

- ▶ 「住まい学大系」既刊案内(1～100) 
- ▶ 「住まい学大系」既刊案内(101) 
- ▶ 「住まい学大系」既刊案内(102) 

■「住み継がれる家の価値」冊子発行への協力

一般の住まい手が「住み継がれる家の価値」について考えるためのヒントをさまざまな視点から紹介します

(財)勤労者住宅協会の委託を受け、京都大学大学院の高田光雄教授監修のもと、住宅の長寿命化に関する研究・知見をベースに、長期優良住宅を見据えた生活者向けの啓発冊子「住み継がれる家の価値」を企画・編集・執筆しました。

2009年3月発行の第1号は「まちの価値」「ものの価値」「しくみの価値」という3章構成となり、住み継がれる家の要件について総論的にまとめました。2010年2月発行の第2号は「まちの価値」に着目し、第1号の内容を具体的な「まちなみ」や「まちづくり」の実例を紹介しながら、より深く理解できるように構成されています。2010年12月には、第3号が発刊され、「住まいを住み継ぐ」という視点から、さまざまな事例を紹介しています。

本冊子は、(財)勤労者住宅協会より、所轄の国土交通省他、(社)関西経済連合会会員企業、大学等に無料配布されており、公的機関及び住まいに関心がある生活者全般に対する啓発活動の一環になっています。

冊子発行後には(財)勤労者住宅協会主催でシンポジウムを開催し、住宅が住み継がれる社会の大切さや基盤となる住宅のあり方について、参加者に理解を深めていただいております。当社 総合住宅研究所員も講演、パネルディスカッションのパネリストとして協力しています。



2010年度発行の第3号では、「住まいを住み継ぐ」という視点から、さまざまな事例を紹介



シンポジウム(2009年)

■ 長寿命住宅シンポジウムⅢ(2010年12月3日) プログラム

基調講演	「住み継がれる家の価値 ～ものの価値の視点から」 (高田光雄氏 京都大学大学院工学研究科教授)
テーマ別講義	(吉田健氏 積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 主任)
講演	「地域の歴史と伝統を住み継ぐ」 (菅家克子氏 菅家設計室主宰)
パネルディスカッション	「住み継げる住まいの条件を考える」
コーディネーター	大島祥子氏
パネリスト	高田光雄氏 中村孝之氏(積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 納得工房長) 菅家克子氏

関連リンク [\(財\)勤労者住宅協会ホームページ](#)

■ 総合住宅研究所の教育貢献活動

小学生から大学生まで、住まいと住環境を学ぶ教育施設「納得工房」で受け入れています

当社総合住宅研究所(京都府木津川市)内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者とともに体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は69万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使って学べる「納得工房」の大きな特長を活かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生、専門学校生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても活用されています。宿泊施設があるため遠方からの参加も可能で2010年度は全国各地から4178人が学びました。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。2010年度は、18大学、346人がこのプログラムを受講しました。

近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO ※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を擬似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※ GARO:「G:ガリバー…寸法変化」、「A:(不思議の国の)アリス…環境変化」、「RO:ロボット…身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老(がろう)＝我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験し(GARO体験)健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。



建築・生活科学・デザイン系の大学生が対象の「住まい体験学習」

(左) GARO体験の様子



(右) 建物の構造についても学びます

■ これまでの実績

	「住まい体験学習」	「納得工房」見学者(学生)
2006年度	10大学340人	5,969人
2007年度	9大学298人	5,574人
2008年度	14大学388人	5,202人
2009年度	16大学340人	4,227人
2010年度	18大学346人	4,178人

関連項目 [▶ 社会性目標と実績](#)

関連リンク [▶ 「納得工房」ホームページ](#)

■ 体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

住まいの安心と安全、ユニバーサルデザイン、環境、エネルギーなどを学習テーマにしています

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国6カ所に設置しています。「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの1つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識も向上するなどの波及効果もあります。

2010年度は2131人の学生を体験学習のため受け入れました。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと考えています。

住まいづくり体験ミュージアム
住まいの夢工場

関連リンク [「住まいの夢工場」体験レポート](#)

全国の「住まいの夢工場」

1 東北 住まいの夢工場	宮城県加美郡色麻町大原8番地
2 関東 住まいの夢工場	茨城県古河市北利根2
3 静岡 住まいの夢工場	静岡県掛川市中1100
4 北信越 住まいの夢工場	富山県射水市有磯2-27-3
5 関西 住まいの夢工場	京都府木津川市兜台6-6-4
6 山口 住まいの夢工場	山口県山口市鑄銭司5000

関連リンク [「住まいの夢工場」見学をお申し込み頂けます](#)

	見学者数(学生)
2006年度	2,169人
2007年度	3,220人
2008年度	2,022人
2009年度	2,087人
2010年度	2,213人

関連項目 [社会性目標と実績](#)

関連リンク [「住まいの夢工場」ホームページ](#)

住まいに関わる、環境や設計・インテリアの分野で教育に貢献

当社は、小学校から大学まで幅広い層の教育機関と連携して、全国各地で職場体験学習の受け入れや出張授業などを実施しています。

「住まいづくり」という当社の本業を活かし、体験学習をはじめ、環境に関わる学習や、設計やインテリアに関する講義を中心としており、2010年度も、全国の事業所やグループ会社で、主に学生向けの職場体験や体験学習などを実施しました。

今後も積極的に学生の受け入れを行い、次世代育成のための教育貢献活動に取り組んでいきます。

■全国での活動の一例

事業所名	内容
福島支店	展示場を用いて、主に環境保全について説明
秋田支店	大学生のインターンシップを受け入れ、1週間にわたって職場体験を実施(展示場、事務所、イベントなど)
山梨支店	中学生の就業体験を受入
埼玉営業本部	小学生の夏休みエコ勉強会として、関東・住まいの夢工場、ゼロエミッションセンターを活用した授業を実施
高崎支店	教員に、最新の住まいとゼロエミッションセンターを体験頂き、家庭科教育に役立てて頂いた
宇都宮支店	協力工事店と連携し、中学生を1週間受け入れ、職場体験を実施
静岡支店	デザイン学校の学生の家具レイアウト学習を支援
山陰支店	建築現場、設計業務の体験学習
倉敷支店	中学校課外学習で、「バリアフリー」について説明
愛媛支店	インテリア、ユニバーサルデザインについての授業に講師派遣
積和建設四国	環境教育に協力、どんぐりの苗木を提供
積和ウッド	社会科見学を受け入れ

■職場体験や講師派遣のこれまでの実績

2008年度	2009年度	2010年度
85回 1,680人	61回 1,885人	144回 2,430人

関連項目 [▶ 社会性目標と実績](#)

■ インターンシップの実施

住宅メーカーの業務を、営業部門・研究開発部門で体験

当社は、次世代の職業人育成を支援することも企業にとって重要な社会的責任であると考え、大学生のインターンシップを実施しています。

2010年度は2種類のインターンシップを実施しました。建築系専攻学生を対象に営業部門で住まいづくりの過程を体験する「住空間創造体験講座」(6日間)では、23人の学生を受け入れました。さらに、建築系専攻以外の学生を対象にした「住まいづくり基礎講座」(2日間)では、東京・大阪・名古屋・福岡の4都市で250人の学生を受け入れ、講義やグループワークを通して住まいづくりの基礎を学んでいただきました。

学校関係者や学生の間ではインターンシップに対する注目度が高まっています。当社でも年々応募学生が増加していますが、受け入れ人数が限られているためお断りするケースもあります。今後は受け入れ人数および実施エリアの拡大を図るとともに、さらにプログラムの充実を図ります。

■ インターンシップ開催概要

<住空間創造体験講座>

開催エリア: 大阪および関東・関西の11支店

開催日: 2010年8月17日(火)～22日(日)

参加者: 建築系学科専攻の大学3年生および修士1年生23人

プログラム

1日目: 本社にて講義後、総合住宅研究所見学

2日目: 総合住宅研究所見学

3日目、4日目: 事業所にて設計業務実習

5日目、6日目: 本社にて設計課題

<住まいづくり基礎講座>

開催エリア: 東京(3回)・名古屋(1回)・大阪(3回)・福岡(1回)

開催日: 2010年8月30日(月)から9月15日(水)の期間、4エリアで8回開催

開催日: 2010年8月30日(月)から9月15日(水)の期間、4エリアで8回開催

プログラム

1日目: レクリエーション

グループワーク

2日目: 住宅業界および当社に関する講義

仕事紹介映像視聴

グループワーク



建築系専攻学生を対象とする「住空間創造体験講座」では、当社の研究施設「総合住宅研究所」を見学。



設計課題に基づき作業を実施するなど、住まいづくりの過程を体験。

「地球にやさしい住生活デザインコンペ」の開催

産学協働の商品企画プロジェクト「地球にやさしい住生活デザインコンペティション」

当社は、学生とともに住空間デザインを考える産学協働の商品企画プロジェクト「地球にやさしい住生活デザインコンペティション」を2005年度から実施しています。住空間における環境意識を高めて、さらに質を向上させた商品を企画するとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を主な目的として、関東と関西の2会場でコンペを実施しています。

2010年度は、“気候変動”という状況の下、「エネルギー」「水」「食」「3R」「交通」「生物多様性」などの課題を学ぶとともに、「家族のコミュニケーション空間：暮らし団らんの中心、食空間、水空間、境界など」「近隣のコミュニケーション空間：緑地、路地、境界、水辺など」「自然と共生する仕掛け：自然力とハイテクの融合、快適とエコの両立、目覚める五感など」の3つのキーワードを重視した「住生活」デザイン提案を募集しました。

全国63大学から267作品の応募があり、9月の2次審査を通過した東西5作品ずつが11月に最終審査（原寸大プレゼンテーション）を終え、東西ともに最優秀賞1作品、優秀賞1作品、入賞3作品が決定しました。このほか、協賛企業賞、審査員特別賞（関西のみ）も選出されました。

当プロジェクトは実寸大模型を制作監修できる実践的内容で、学生の関心は非常に高く、好評です。東西の学生が審査会で交流したり、コンペティションを経験・卒業した先輩が後輩にアドバイスしたり、参加者同士が関わりを持てる場として大いに活用できます。今後、産学協働の輪をさらに強く大きなものにしていきたいと考えています。



最終審査では、原寸大作品を審査員にプレゼンテーション



最優秀賞（関西）
「雨をひっかける壁」大阪市立大学大学院
内藤まみさん、洲崎海さんの作品



最優秀賞（関東）
「めぐりバス」日本大学大学院
今野和仁さん、高橋雄也さん、永嶋竜一さんの作品

関連項目

- ▶ [社会性目標と実績](#)
- ▶ [社会貢献活動](#)

関連リンク

- テーマ、審査委員、スケジュール、過去の受賞作品などをご覧頂けます
- ▶ [「地球にやさしい住生活デザインコンペティション」ホームページ](#) 
 - ▶ [「最終公開審査会」プレスリリース](#) 

■環境教育プログラムの実施

子どもたちが環境について楽しく学べる機会を提供しています

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、当社は「エコ・ファースト企業」として環境大臣と取り交わした3つの約束(1)CO₂排出量削減、(2)生態系ネットワークの復活、(3)資源循環の取り組みをテーマとして、暮らしの中でできる省エネや自然環境保全、資源の有効利用の大切さを「楽しく学ぶ」3つの体験型学習プログラムを実施しています。

2010年度は、資源循環について学ぶ体験学習プログラムの出張授業版を新たに作成、実施を開始しました。

(1)キャプテンアースの「いえエコロジー」

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしの関わりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから“理科離れ”を解消していくプログラムです。

2010年度は、出張授業を73回実施しました。

■45分コースの例 <暮らしの省エネ・断熱性能について>

講義(10分)

- ・概要、趣旨説明
- パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例をあげ「エコ」or「エコじゃない」について考える

実験(25分)

- ・断熱性能の実験①(10分)
- 放射温度計の使い方を説明。ポットのお湯と表面温度を測り「断熱性能」について考える。
- ・断熱性能の実験②(15分)
- 住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。

まとめ(10分)

- ・暮らしの中で「断熱性能」を活かした例を紹介
- ・実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- ・キャプテンアースとの約束
- 今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束(発表)する。



赤外線サーモグラフィカメラを用いた授業は、「断熱性能」に対する子どもたちの理解を一層深めます。

<お問い合わせ先>

コーポレート・コミュニケーション部CSR室
TEL:06-6440-3440
E-mail: csr@sekisuihouse.co.jp

(2)Drフォレストからの手紙

校庭などの身近な自然をテーマに、緑の専門家(Dr. フォレスト)から出されたミッションをクリアする中で、生態系や在来種・外来種問題を考え、そこで得た新しい知識や視点・考え方をこれからの行動につなげることを目的としたプログラムです。2007年に、第2回キッズデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)(主催:NPO法人キッズデザイン協議会)を受賞しています。

教師が自由にアレンジすることのできる教材提供(教材データ一式のダウンロード)と緑の専門家(Dr.フォレスト)が学校にやってくる出張授業(講師派遣)の2種類をご用意しています。また、本プログラムをベースにした教員研修(教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣)も実施しています。

2010年度は、出張授業を20カ所1071人、教員研修を3カ所67人に実施しました。



	教材提供	出張授業	教員研修
	“体験思考型”環境教育プログラムを無償でダウンロードできます。	緑の専門家が“体験思考型”環境教育の出張授業を無償で実施致します。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施致します。
内容	授業プログラム教材一式提供	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 (クラス単位での実施) ※教材のアレンジにより中学校での実施も可能	小学校4～6年生 (クラス単位または合同での実施)	・教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方 ・各教育委員会が取りまとめる現役の教員
詳細	click	click	click



室内で、フィールドで「Dr. フォレスト」から出されたミッションを解決しながら、楽しく生態系について学ぶことができるプログラムです。

<お問い合わせ先>
環境推進部
TEL:06-6440-3047

(3)「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」(施設見学版) 「うちのリサイクルのおはなし」(出張授業版)

当社施設を見学しながら問題を解くミッション達成型 2010年度は新たに出張授業版では、ゴミの不法投棄問題、ついて学びます。その後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのように、どのようなものになり サイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。



<お問い合わせ先>
(施設見学型)
関東工場 総務部 TEL:0280-92-15311 (施設場所:茨城県古河市)
(出張授業型)
環境推進部
TEL:06-6440-3047

■ これまでの実績

	「いえコロジー」セミナー	Drフォレストからの手紙	リサイクル
2008年度	43回	出張授業:10回(612人) 教員研修:9回(355人)	-
2009年度	39回	出張授業:17回(1,214人) 教員研修:4回(180人)	施設見学型:4回
2010年度	73回	出張授業:20回(1,071人) 教員研修:3回(67人)	施設見学型:1回(39人) 出張授業型:1回(116人)

関連項目

- 社会性目標と実績
- 社会貢献活動

■新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

都会の中で農業や様々な生き物との遭遇など里山を体験できます

日本古来の里山の再生および都市環境と自然との調和を目指す「新・里山」

2006年7月、当社本社がある新梅田シティ(大阪市北区)の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を取り入れた約8000m²からなる「新・里山」を造成しました。「新・里山」には雑木林や竹林、棚田、野菜畑、茶畑などを設け、地域の自生種・在来種を中心に植栽することで、本来その地域に生息する生き物の多様性の保全にも配慮しています。野鳥や昆虫をはじめ様々な生き物が共生し、都市環境と自然との調和を目指しています。大阪駅から徒歩圏の高層ビルの中に、このような生態系豊かな空間が再生していることは、各方面から注目を集めています。

「新・里山」全体図



地元の子どもたちや新梅田シティで働く人々と家族が体験学習に参加しました

「新・里山」では、毎年、地元の幼稚園や、小学校の総合学習授業の場として、当社従業員が講師を務める無農薬による農業体験学習を実施しています。2010年度においては、大阪市立大淀小学校5年生53人が、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機や唐箕(とうみ)を使った脱穀作業など機械に頼らない昔ながらの米作りを、大阪市立中大淀幼稚園の園児40人と保護者はサツマイモの植え付けからイモ掘りまでを体験しました。

また、新梅田シティで働く人々やその家族で構成されたボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」は、米作りや野菜の栽培・収穫といった農業体験や里山保全の活動をしました。2010年度は、天候に恵まれず3回の活動が中止となったこともあり、4回の活動、34人の参加となりました。

これらの取り組みは、単なる農業体験学習にとどまらず、生態系の維持・保全、そして米や野菜の収穫によって「食育」までも含んだ活動となっています。今後も、機械に頼らない昔ながらの農業体験学習などを継続し、都会における貴重な自然体験の場を提供していきます。



大淀小学校5年生による田植え(6月)



中大淀幼稚園児によるサツマイモ掘り(10月)



6月に植えた稲を稲刈り(10月)



昔ながらの唐箕(右)を使って脱穀(11月)

■ これまでの取り組み

小学生による「米作りの体験学習」

2007年より大淀小学校5年生が約100坪の棚田において、機械を使わずに手作業で、また無農薬有機栽培で米作りの体験学習を実施。収穫したお米は精米して生徒たちに配布しました。

年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
人数	52人	69人	62人	53人

幼稚園児による「サツマイモの栽培と野菜の成長観察」

2007年より中大淀幼稚園の園児と保護者が、畑でサツマイモを栽培・収穫。また、サツマイモやスイカ、トウモロコシなどの成長を見る観察会を実施。収穫後のサツマイモの蔓(つる)は、幼稚園でのクリスマスリースづくりに使われました。

年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
人数	28人	19人	26人	40人

オフィスワーカー交流の新しい形

2006年に新梅田シティで働く人々やその家族でボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」を結成。米作りと野菜の栽培・収穫の農業体験や自然観察会、また雑木林の下草刈りなど里山保全のボランティア活動をしています。

年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
回数	5回	10回	11回	6回	4回
人数	162人	232人	234人	104人	34人

社外からの評価

2010年	ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会「銅賞」 (主催:環境省) 企業フィランソロピー大賞 特別賞「自然共創賞」 (主催:公益社団法人日本フィランソロピー協会主催)
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

関連項目	社会性目標と実績 社会貢献活動
関連リンク	新梅田シティ「新・里山」ホームページ

■「企業の森」制度への参加

「5本の樹」計画を社会貢献活動でも実践

和歌山県「積水ハウスの森」

当社は、和歌山県が実施する「企業の森」制度※を活用した森林保全活動に取り組んでいます。世界遺産・熊野古道に近い田辺市中辺路に「積水ハウスの森」と名付けた約2.6ヘクタールの森林を10年間の予定で借り受け、2006年4月から年に2回、春と秋に植樹、下草刈りなどを実施しています。開始したものです。

当社は、「里山」をお手本として自生種・在来種を中心に植栽する庭づくり「5本の樹」計画を推進していますが、「積水ハウスの森」では、この計画趣旨に沿った広葉樹（コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、クヌギ等）を植樹しています。活動にあたっては、現地森林組合の方々の指導の下、春は補植、秋は下草刈りを中心に活動を実施しています。また、さまざまなレクリエーションも企画し、地域とのコミュニケーションを図っています。

2010年度は、3月に103人が参加して約500本のコナラを補植、10月には79人が参加して下草刈りを行いました。2010年度末までに計10回活動し、延べ参加人数は1037人となっています。「積水ハウスの森」での取り組みは、「5本の樹」計画を社会貢献活動でも実践したもので、当社は生態系保全活動の一環と位置付けています。

今後も、下草刈りや補植などの森林整備活動、また従業員やその家族が参加する自然体験（稲作や観察会）などの活動を一層推進し、地域との交流も拡大していきます。

※ 「企業の森」制度：企業が地元の森林所有者から土地を借り、植樹や下草刈りに参加することで森林保全を支援する制度。輸入木材に押されて利用が減った結果、手入れが行き届かずに荒れたまま放置されている地域の森林を保全することを目的としている。近年、各地の自治体で実施され、特に和歌山県では、県がコーディネートして積極的に推進。日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして注目される。



3月には約500本のコナラを補植。補植後には、レクリエーションを通じて、地域の方との交流を実施しました。



10月は、汗だくになりながら下草刈りを実施。

参加人数

年度	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
実施月	9月	4月	9月	4月	10月	4月	10月	3月	10月	3月
参加人数	112人	120人	100人	85人	88人	83人	165人	102人	79人	103人

青森県と「森林づくり協定」を締結

東北営業本部では、青森県と「森林づくり協定」を結び、「企業の森」活動を通じて森林の保全活動に努める取り組みを開始しました。

青森県五所川原市にあるカラマツ伐採跡地1.37haの荒地に、ブナ・ヒバ・ケヤキ・ヤマザクラを植樹し、下草刈り、追加植樹等の活動を今後5年間行います。

9月5日(日)にはオーナー様を含む総勢170人が参加して、第1回目の植樹を実施。

10月11日(月)には、第2回目の植樹をハウス会・積和建設会・積和建設・積和不動産・リフォーム・カスタマーズ等60人が一丸となって400本のブナの植樹を実施しました。

森林保全活動を通じ、地域やオーナー様、関連業者様との絆も深まるこの取り組みを、今後も実施していきます。



活動実施後、参加者で記念撮影を実施



ブナ・ヒバ・ケヤキ・ヤマザクラを植樹しました

全国の事業所・工場が地域と協力し、清掃活動を実施

当社グループでは、全国の事業所や工場において、従業員だけでなく家族や取引先にも呼びかけて、地域の清掃活動に取り組んでおり、2010年度も各地で継続実施しました。

山口工場では、山口市等が主催する「ふしの川水系クリーンキャンペーン」に参加しました。この活動は、河川愛護週間に合わせ、市の中心部を流れる榎野(ふしの)川沿いの清掃を目的に毎年行われているもので、当社は2006年度より希望者を募り活動に参加しています。

埼玉営業本部の多くの事業所では、埼玉県が市町村と協力して、河川における自治会や愛護団体等によるボランティアでの美化活動を支援し、河川愛護意識の一層の高揚と良好な河川環境の維持・保全に資することを目的に、2005年度から全ての県管理河川で募集している「彩の国リバーサポート制度(水辺のサポーター)」に参加しています。

大阪市が実施した大阪府一斉清掃「クリーンおおさか2010」には、11月5日早朝、本社および周辺事業所、グループ会社などから232人が参加し、本社のある梅田スカイビル周辺を清掃しました。ビン、カン、ペットボトル、紙、吸殻、落ち葉などを回収し、まちの美化に協力しました。また、梅田スカイビル周辺の清掃活動は、「クリーンおおさか」だけではなく、毎月実施しています。

2011年度も、このような清掃ボランティア活動を各地の事業所や工場で実施します。



「水辺のサポーター」(埼玉営業本部)
多くの従業員が参加し、流域河川の美化に取り組んでいます



「ふしの川水系クリーンキャンペーン」(山口工場)
2006年度から参加、河川敷や河川公園周辺のゴミを拾い、地域の方々とともに汗を流しました

■「100万人のキャンドルナイト」への参加

「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」「キャンドルナイト」への参加

キャンドルを灯して過ごす大切な人との時間

環境保全のトップランナーである「エコ・ファースト企業」として、当社グループは地球温暖化防止のための新たな国民運動「チャレンジ25キャンペーン」の一環として、環境省が呼びかける「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に参加しました。

「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」は、2003年より実施している、温暖化防止のためにライトアップ施設や家庭の電気を消していただく取り組みです。ライトアップに馴れた日頃生活の中、電気を消すことでいかに照明を使用しているかを実感し、地球温暖化問題について考えていただくことを目的としています。6月21日(夏至の日)と7月7日[七夕・(クール・アース・デー)]の両日の夜8時から10時までの2時間を、特別実施日として設定し、全国のライトアップ施設や各家庭のあかりの「ライトダウン」を広く呼びかけています。

また、関西地区の当社分譲マンションにお住まいのオーナー様に呼びかけ、2010年3月13日に独自に「キャンドルナイト」を実施しました。

キャンドルの灯りの下でテレビを消して家族で語り合う時間を持つ「家族のつながり」を再認識する機会ともなるこれらの取り組みは、当社事業活動の意義とも重なる大切な意味があると考えています。今後も、社員とその家族、また、お客様やお取引先様へもキャンペーンへの積極的な参加を呼びかけていきます。



社内イントラネットで、「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」参加によるCO₂削減効果を共有しました



環境省が提供するポスターやバナーの利用も呼びかけました



「グランドメゾン西九条BIO」「グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ」で、キャンドルナイトを実施

■「5本の樹」を生かした地域貢献活動

生物多様性保全に配慮した庭づくり・まちづくり「5本の樹」計画の考え方を地域に広め、自治体、教育機関、市民団体、市民の方々と協働して、みどりのまちづくりに取り組む地域貢献活動を全国各地で推進しています。

いわき支店では、蝶や鳥が寄ってくる「5本の樹」計画に基づく庭づくりの考え方を広げるため、「巣箱づくり」をこどもたちと一緒に実施し、これまでに5000個以上の巣箱を作成、普及してきました。

神奈川営業本部では、行政、教育機関などと連携し、神奈川県秦野市の里山で、約100人の従業員が種拾いを実施しながら、里山に対する理解を深めました。拾った種は従業員が持ち帰り、自ら育て、地域に広げていく予定です。中部第二営業本部（静岡・浜松・沼津・新潟・松本・長野）でも同様の取り組みを実施しています。積和建設四国では、様々な種類の樹や花を育て、地域の幼稚園や小学校に寄付する取り組みを実施しています。生産部門においても、種から「5本の樹」を育てる取り組みを開始しました。



大人からこどもまで、みんなで一緒に巣箱をつくりました（いわき支店）



里山に入り、ビニール袋片手に種拾いを実施（神奈川営業本部）



たくさんの種類の種を拾うことができました（中部第二営業本部）



拾った種は、事務所などで一生懸命育てています（積和建設四国）

「バードウィーク&5本の樹フェスティバル」を開催

また、毎年5月には、本社のある梅田スカイビルで、「バードウィーク&5本の樹フェスティバル」とよぶイベントを開催しています。ビルに併設する「新・里山」での自然観察会、子どもから大人まで楽しみながら生物多様性について学べる「クイズラリー」、出展NPOによる「ものづくり体験」などを実施しました。2010年度は約5500人の市民の皆さんに参加頂き、「5本の樹」計画の考え方を知って頂くことができました。イベント当日には「グリーンウェイブ2010」の一環として、企業、NPO、地域の方々が一緒になって「新・里山」への植樹も実施しました。

今後も、地域ごとに、一人でも多くの市民の皆さんが参加しやすい活動を実施し、みどり豊かな地域づくりに貢献していきます。



「グリーンウェイブ」に登録し、「新・里山」で植樹を実施



「新・里山」で専門家による自然観察会



環境キャラクター「エコぼう」も登場し、こどもたちも大喜び

関連リンク [「グリーンウェイブ2011」](#) へ

■ 埼玉県「みどりと川の再生」活動に参加

まちにみどりを増やし、山をよみがえらせ、水に親しめる川をつくるため埼玉県が取り組む「みどりと川の再生」活動に2010年度から参加しています。

緑豊かな埼玉を守るため、「森林の保全整備」「身近な緑の保全・創出」「環境教育」の推進に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」の活動では、当社が、太陽光発電システムや家庭用燃料電池を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築する毎に2000円を「彩の国みどりの基金」に寄付しています。2010年度は774棟154万8000円の寄付を行いました。また、県民が1人1本を植樹する「県民1人1本植樹運動」にも参加し、「5本の樹計画」を通じてお客様に庭への植樹を積極的に提案させて頂き、60期(2010年2月～2011年1月)は4万3528本をエントリーしました。さらに、木造住宅シャーウッドに埼玉県産材である「秩父檜」を構造材の一部に採用する取り組みや、彩の国リバーサポート制度に参加し、河川の美化活動などの取り組みも実施しています。

2011年度も「みどりと川の再生」活動への参加を通じて、従業員の意識向上に取り組むとともに、環境配慮型住宅の普及を始めとする地球環境保全に取り組めます。



埼玉県上田清司知事(右)から感謝状を頂きました。



■ 防災意識の啓発

生活に役立つ情報を発信して防災意識を啓発

住まいの防災対策には、建物のハード面の充実だけではなく、そこに生活する人々の日常からの備え、防災意識の高揚が大切です。当社では、防災意識啓発のために、当社が保有する生活ノウハウを積極的に情報発信しています。

「住まいの夢工場」では、震度7クラスの揺れを耐震と免震の建物で比較体験することができます。

生活リテラシーブック「住まいと暮らしの防災」の発行

また、生活者にとって有用な情報や、災害に備えて知って欲しい生活ノウハウを一般雑誌スタイルでまとめた「生活リテラシーブック『住まいと暮らしの防災』」の発行や、一般生活者向けの「防災セミナー」の開催、当社の大型分譲団地で実施される住民主体の防災訓練にも、開発企業として参加し、地域住民に対する防災セミナー開催などを通じて防災意識を啓発しています。



Issue+design コンペティション2010を支援

社会課題を市民の創造力で解決し、安心して市民が暮らせる社会を実現するため、神戸から日本に、世界に、アイデアを示していく「Issue+design コンペティション2010」を支援しています。

2010年度、市民の声から選ばれたテーマの1つは「震災+design」です。住まいの耐震化のためにデザインは何が可能か。大地震発生時住まいの耐震化のためにデザインは何が可能か。大地震発生時に死に至る原因の一つが家具の転倒による圧死です。怪我を負う、家屋から脱出できないなどの理由で逃げ遅れることにもつながります。家具・家電等の転倒を防ぐために、住民に転倒の危険性、家具固定の重要性を認識してもらうために、デザインは何が可能か、ある特定の住宅を想定し、そこで生じる課題を明らかにして、課題解決のデザインを提案するコンペが実施されています。

関連リンク [Issue+design コンペティション2010 ホームページ](#)

情報サイト「All About」で研究成果を発信

当社総合住宅研究所の研究員が「家庭でできる防災・耐震対策」のテーマで、その研究成果を公開し、一般社会に向けた意識啓発活動を実施しています。

■ 情報サイト「All About」掲載コンテンツ

- | | |
|----------------------------------------|--------------------------------------|
| 遥かな道のり40km！「帰宅難民」実験-1 | 忘れてない？愛犬だって被災する！ |
| 遥かな道のり40km！「帰宅難民」実験-2 | どのくらい有効？地震に備えた家具転倒対策 |
| 死者年間1000人以上！住宅火災を防ぐ4か条 | 防災対策は「わざわざ」やるから続かない |
| 地震発生！そのときどうする？ | 地震で断水！4人家族が必要な水の量は？ |
| グルメも納得！備蓄食料でつくる防災レシピ | どうなる？大地震発生からの48時間(1) |
| 予算ゼロ！？カンタン防災対策7か条 | どうなる？大地震発生からの48時間(2) |
| ガイドが自宅で実践！オススメ地震対策 | 数秒後に震度5が！？緊急地震速報スタート |
| 知っておきたい！被災後の生活再建支援 | |

関連項目 [「住宅防災」への取り組み\(P.274\)](#)

■災害時における地域との協働

訓練や備蓄で、お客様や地域住民の方々とともに災害に備えています

サステナブル社会を形成するためにも、防災への取り組みは欠かせません。「企業も地域の一員」と考える当社は、地域の皆様と一緒に災害に備えています。一例として、当社分譲地の「リフレ岬・望海坂(のぞみざか)」では、定期的に各種防災訓練を実施するなどして、住民一人ひとりの防災意識の向上に努めています。

また、静岡工場では、2004年に発生した新潟県中越地震を支援した経験を活かし、防災備蓄を継続しています。従業員だけでなく、地域の皆様にとってもお役に立つものにするために、備蓄品は、食料や水といった生活必需品から復旧用の工具やシャベル、医薬品など多岐にわたってそろえています。

なお、万が一災害が発生した際には、工場を避難所として活用することも想定しています。



自治会と共同で防災訓練を実施
(リフレ岬・望海坂)



災害に備えた備蓄倉庫
(静岡工場)



東日本大震災における、積水ハウスグループの活動についてのご報告

地震直後、本社・現地に対策本部を設置。初動・安否確認体制を迅速に整えました

地震発生当日、本社に対策本部を設置(対策本部長は社長)しました。これまでの災害時対応の経験に基づき組織体制を整え、情報・指示系統の一元化を図るとともに、被災エリア内9カ所に現地対策本部を設置。グループ全従業員の安否を確認(3月15日に完了)し、お客様の安否確認および支援を行う初動体制を迅速に整えました。

■ 当社住宅被災状況

被災地における既築棟数	震度5強以上のエリアに177,458棟
被災棟数	上記のうち約2%
全半壊棟数	揺れそのものによる全半壊棟数 0棟

地震発生当日から、お客様の安否・被災状況の確認を開始しました

まず、各担当エリア内のお客様の安否確認を一刻も早く行うことに注力しました。被災エリアのお客様に対する状況確認や情報提供は、地震発生当日から開始。電話連絡で安否や建物の被災状況、早急に対応が必要なことなどを伺いました。さらに確認訪問も順次行いました。

■ 被災エリアの引き渡し済み建物数

被災地における既築棟数	合計	戸建住宅	賃貸住宅	その他
震度5強以上エリア	177,458棟	127,737棟	45,408棟	4,313棟
震度6強以上エリア	67,436棟	50,142棟	16,352棟	942棟

東北6県、関東1都6県、山梨県、静岡県内の該当市町村合計

電話と直接訪問により約3週間で確認を完了しました

今回の災害では、想定外の規模の地震・津波の影響で、電気・ガスなどのインフラも甚大なダメージを受けました。連絡がとれない地域のお客様の不安を少しでも早く解消すべく、電話が通じないエリアでは、人海戦術で直接訪問を実施。ほぼ3週間でお客様の安否確認および建物の被災状況の確認を終え、復旧工事をスタートさせました。

交通網寸断の中、地震発生3時間後に支援物資の輸送を開始しました

主要交通網が寸断された被災地のお客様や事業所に向け、支援物資の供給を早急に行いました。地震発生3時間後には静岡工場から第一便が出発。その後も順次、現地(岩手北上、仙台、福島、郡山、群馬、水戸)に支援物資を輸送しました。支援物資はお客様や従業員だけでなく、病院や避難所、一般被災者の方々にもお渡ししました。

■ 主な支援物資一覧(10トラック52台分)

飲料水	348,000 ℓ	カセットボンベ	14,800個
食料・主食系	284,000食	カイロ	205,000個
食料・副食系	117,000食	おむつ	45,700枚
衣類・毛布	9,600枚	土のう袋	17,000枚
ブルーシート	12,800枚	バイク	150台
カセットコンロ	3,800台		

2011年4月1日現在

「お客様と地域のために」を判断基準に住居提供や仮設トイレの設置も行いました

これまでの災害時に培ってきた経験をもとに、グループ一丸となり「お客様と地域のために」できることを第一に考えました。炊き出しや支援物資受付に使用するテントと仮設トイレの設置、賃貸物件の一部を被災者支援住宅として提供するなど、さまざまな取り組みをいち早く実施しました。

復旧・復興工事に必要な調達・生産体制を速やかに整えました

震災による停電などの影響で一時稼働を停止していた関東工場、東北工場が約1週間で復旧し、生産・出荷を再開しました。また、今後の復旧・復興工事に必要な資材の調達に関しては、取引先各社に積極的に働きかけ、早期に安定供給体制を整えました。



全国のカスタマーズセンター従業員が全国から応援に(福島)



協力工事店とともに復旧対策会議(福島)



仮設トイレを分譲地内の公園に設置(千葉)



支援チームの車両で駐車場は満杯(宮城)

組織力を生かし、多くの応援人員を被災地に派遣。一日も早い復興を目指します

早期の復旧・復興のため、メンテナンスを担当するカスタマーズセンターをはじめ、グループ会社の積和建設および協力工事店で構成される「積水ハウス会」の協力を得て、応援人員を被災地に派遣。全国規模の組織力を生かし、一日も早い復旧・復興に取り組んでいます。

住宅メーカーの社会的責任として、約4000戸の仮設住宅を建設予定

政府・自治体の協力要請に応え、仮設住宅の建設にも協力しています。当社は宮城県、岩手県、福島県で着工。断熱性に優れ、バス・トイレを完備した仮設住宅(約4000戸を予定)が、全国から応援に駆け付けた施工担当者により急ピッチで建設されています。

高性能・高品質な建物で急増する復興住宅ニーズに応えます

住居を失った方の住まいや被災者を受け入れるための集合住宅などの建設要請にも万全の体制で臨むべく、営業・設計・施工が一丸となり業務を遂行しています。

被災地では揺れそのものによる全半壊棟数はゼロで、制震システム「シーカス」をはじめ、当社住宅の耐震性に対して高い評価をいただきました。高性能・高品質な建物で復興住宅ニーズに応えていきます。



急ピッチで進む仮設住宅の建設



高品質かつ迅速な生産で早期復興を推進(東北工場)



全国から駆け付けた多くの施工担当者が建設に従事

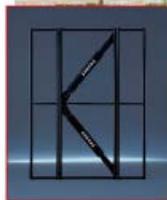
少しでも早い被災地の生活再建を願い、特別仕様商品も用意しました

被災地の皆様に少しでも早く安全・安心・快適な住まいを提供するために、コストを抑えたパッケージ型の商品を用意。プラン・仕様を限定することで、オリジナル制震システム「シーカス」を標準装備するなど高い基本性能はそのままに、早期着工が可能で、工事期間も短縮できます。

これからもグループの総力を挙げて被災地の復興に尽力し、社会的責任を果たしていきます。

■「シーカス」三つの特徴

- 1 地震動エネルギーを熱エネルギーに変換して吸収する
- 2 建物の変形を約2分の1に低減する
※発生する地震によっては低減効果が異なる場合があります。
- 3 繰り返しの地震に効果を発揮し、耐久性が高い



震度7クラスの大地震を想定して開発した「シーカス」。繰り返しの地震に強い住まいを実現します。

積水ハウスオリジナル 大規模住宅「積和積建」

SHECAS

地震動エネルギー吸収システム(シーカス)

www.sekihouse.com/shecas

震度7クラスの大地震を想定して開発した「シーカス」。繰り返しの地震に強い住まいを実現します。

関連項目

- ▶ 東日本大震災における、積水ハウスグループの活動についてのご報告(PDF:1.1MB)
- ▶ 「住宅防災」への取り組み(P.274)

■ 防犯教育と意識啓発

防犯意識の啓発

生活者の犯罪に対する不安感はい依然として高い昨今、住まいにおける防犯対策の強化が求められています。当社では、誰もが安心して暮らせる住まいや街づくりを目指して、防犯仕様やタウンセキュリティなどの普及を図ると同時に、一般の方に向けた防犯意識の啓発に積極的に取り組んでいます。

住まい手の防犯意識を高める啓発活動としては、当社のお客様に限らず広く一般の方々を対象に、「納得工房」(京都府木津川市)や全国の「住まいの夢工場」を活用し、体験を通して楽しみながら学んでいただいています。

また、住まいに関するさまざまな角度からの調査・研究成果を、わかりやすくまとめた発信する冊子「view point」でも、第4号「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～を発行。防犯意識に対する実態や泥棒に狙われにくい住まいづくりを紹介しています。



「納得工房」の防犯ゾーン

さらに、一般の情報WEBサイト「All About」では、当社総合住宅研究所の研究員が「防犯に強い家の工夫」「子どもを守る防犯対策」の2テーマで、その研究成果を公開し、一般社会に向けた意識啓発に努めています。

このほか、地方自治体で開催されている防犯セミナーにも継続的に協力し、狙われにくい住まいづくりや近隣住民による見守りの必要性などを提案しています。

今後も、当社が培ってきた住まいづくりにおける防犯のノウハウが、安全なまちづくりに広く活用されるように協力していきます。

■ 情報サイト「All About」掲載コンテンツ

防犯に強い家の工夫

- 防犯カメラだけじゃない！泥棒が嫌がるのはこんな街
- 車でおなじみの技術応用！進化を続ける玄関錠
- 1回の施錠で2ヶ所同時ロック！便利な「玄関錠」登場
- 玄関の鍵かけた？色で知らせる賢い鍵が登場
- 紫外線カット！防犯ガラスの知られざる効果
- 「家のカギ締めた？」外出先で確認する方法
- 事例に学ぶ！泥棒が近づきにくい街づくり
- 予算ゼロ！？カンタン防犯対策7カ条
- え！？「強化ガラス」に防犯効果がない？
- コソ泥はこんなところに目をつける！

子どもを守る防犯対策

- 「猛犬注意」も今は昔・・・犬に防犯効果はなくなった！？
- 留守なのに無施錠・・・！泥棒はこんな「心の隙」を狙う
- 見逃すな！「これで安全」に潜む落とし穴
- 防犯の新常識！泥棒は昼間に活動している！？
- 何mあれば子どもは犯罪者から逃げ切れる？
- 犯罪者が子どもに囁く「8つの誘い文句」
- 子どもに教えたい、ヘンな人ってどんな人？
- 釣りで実践！車上荒らしはこう防ぐ
- 手抜き厳禁！年末年始旅行前の空き巣対策
- 「ひとりでお留守番」を成功させる4ヶ条

■ セルフ製品の販売協力、ノベルティ採用

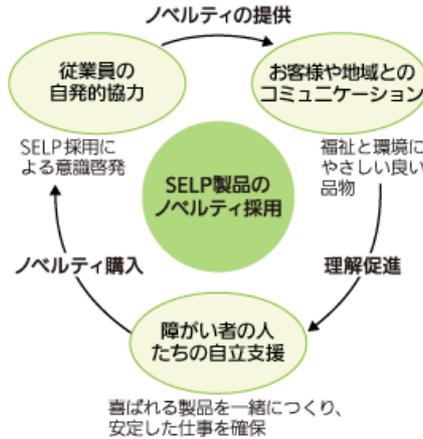
障がい者の作るセルフ製品を、当社ノベルティに採用し、自立を支援しています

当社では、障がい者の社会参加と自立支援に取り組むNPO法人トゥギャザー（奈良県奈良市）と協働し、障がい者自立支援に積極的に取り組んでいます。障がいを持つ人たちがリハビリを兼ねてつくるSELP（セルフ）製品※を、当社の全国統一イベントである「住まいの参観日」（住宅現場見学会）や展示場の来場者へお渡しするノベルティグッズとして採用・購入することで、障がい者の自立を支援しています。

住宅メーカーというあらゆる人々の生活に携わる企業として、また、当社の企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動として、障がい者の社会参加と自立支援は当社の社会的使命であるという考えに基づく取り組みです。これらSELP（セルフ）製品のノベルティグッズは専用のカタログを作成し、自社内注文システムでも紹介しており、全国の当社事業所で活用しています。

「池田清明エコカレンダー」は8494個、エコバッグは1万1150枚を採用。2010年度のSELP製品採用数の合計は2万9414個となっています。

2010年は、これまで試作品の製作に取り組んできた、当社の工場から出る端材を利用した木製のSELP製品を、主に当社のシャワーウッド住宅のお客様向けノベルティとして製品化することができました。今後も、SELP製品を定番ノベルティグッズとして継続的に採用するために、さらに魅力的な商品の企画にNPOと協働で取り組み、障がい者の自立を支援していきたいと考えています。



※ SELP（セルフ）製品とは、障がい者が社会福祉施設において、リハビリや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことです。「SELP」は英語のSelf-Help（自助自立）から作られた造語です。また、Support（支援）、Employment（就労）、Living（生活）、Participation（社会参加）の頭文字からなる単語ともされています。



SELP製品一番人気エコバッグ



「池田清明」エコカレンダー



シャワーウッド端材を活用した「鍋しき」と「携帯ストラップ」



■ これまでのセルフ製品採用実績

年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
個数	10,150個	22,600個	31,312個	39,738個	32,290個	29,414個

■ これまでの取り組み

2007年	NPO法人パートナーシップ・サポートセンターと日本財団共催の「第5回パートナーシップ大賞」において「パートナーシップ賞」を受賞
-------	-----------------------------------------------------------------

関連項目

- ▶ 社会性目標と実績
- ▶ 社会貢献活動

■ 障害者週間行事への参画

障害者基本法では毎年12月3日から9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。これは障がいや障がいのある方々に対する理解と関心を深めるとともに、障がいのある方の社会参加意欲を高めることを目的としたものです。2010年度、大阪では、障がい者の「自立と就労、社会参加」を目指すことを軸に、行政、企業、NPO、市民が互いに理念を尊重し合いつつ、社会との新たなつながり方についての協働関係を考える場としてシンポジウムを開催しました。この形での企画は6回を数え、大阪の障害者週間行事として益々定着してきております。

「障害者と社会をつなぐシンポジウム」は、当社本社のある梅田スカイビルで開催され、当社はこのシンポジウムの運営に協力しています。福祉に携わる方々や障がいのある当事者の方をはじめとする、125人が来場しました。

2010年度は、基調講演や調査報告を設けず、前半の第Ⅰ部では、「現状把握と問題提起」と題し、パネリストの方々にそれぞれの立場からテーマに即して現状と今後の課題を発表していただきました。後半の第Ⅱ部では、「経営戦略としての障害者雇用」のテーマについて、質疑応答の場として、パネリストの方々と会場全体で本テーマについて考え、例年以上に活気溢れる場となり、ご来場の方々には大変好評でした。

このほかに、関連行事として「障害者週間のポスター」の優秀作品展示や、障がい者の社会参加を支援する企業の取り組みを紹介する展示会、障がい者の手作り作品展示・販売会などが催されました。

関西で定着してきたこの行事は、参加企業・団体の拡大、展示と交流の質の向上を図るとともに、今後、益々発展することが期待されます。

【行事概要】

「障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために」

■ シンポジウム開催

「障害者と社会をつなぐシンポジウム」来場数161人

(主催)

障害者週間協賛行事大阪実行委員会

(後援)

内閣府、大阪府、大阪市、社会福祉法人大阪社会福祉協議会セルフ部会

<シンポジウム内容>

パネルディスカッション

「経営戦略としての障害者雇用」

障害者の「自立と就労、社会参加」を目指すことを軸に、行政、企業、NPO、市民が互いに理念を尊重し合いつつ、協働関係について考える場として、企業・福祉関係者の他障害を持つ当事者や親の会の方々、教育関係者、学生など、様々な立場の人が自由に参加し、「実践的な発題」、「参加する啓発事業」として有意義なものとなることを目指しています。

(パネリスト)

大阪府福祉部 障がい福祉室 障がい福祉企画課長 熊木正人氏

(株)ダックス四国 代表取締役社長 且田 久雄氏

社会福祉法人一麦会(麦の郷)執行理事/NPO法人社会的就労支援機構 理事 柏木克之氏

毎日新聞 論説委員 野澤和弘氏

(コーディネーター)

社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事 早瀬 昇氏



シンポジウムには125人の方が来場



コーディネーターとパネリストだけでなく、来場者も巻き込み、例年以上に活気あふれる場となりました

<関連行事>

■ みんなでつくる共生社会パネル展

「障害者週間のポスター」入選作品のうち、大阪府下(大阪府、大阪市、堺市)の最優秀作、優秀作(全10点)ならびに「心の輪を広げる体験作文」の最優秀賞(全6点)をパネル展示。

■ 障害者の社会参加を支援する企業展示会

(企業26社、NPO等5団体、計31の企業・団体が出展)※会期中の来場者:2万2611人

関西地区で事業活動を行う企業を中心に、企業の社会的責任(CSR)に積極的に取り組み、その一環として、障害者の自立と社会参加を支援するための自発的、積極的に行われている活動を紹介するために開催しました。前年度に続き、NPOの参加も呼び掛け、多彩な展示会としました。また、出展企業、団体による「出展企業交流会」も開催し、取り組みの相互理解と出展者同士の交流を深めました。

■「かんでんコラボ・アート21」

※主催:関西電力

■障害者の手作り作品展示・販売会

■とっておきのさをり展

関連項目 **社会性目標と実績**

NPO・NGOとの協働

さまざまなNPO、NGOと協働しています

当社は、事業活動のみならず社会貢献活動においても、さまざまなNPO、NGOと協働した取り組みを展開しています。今後も、環境保全やコミュニティの形成、障がい者自立支援のため、NPO、NGOと協働で取り組むとともに、従業員参加型の寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、多くの団体の活動を支援していきます。

環境保全の推進で

「5本の樹」計画の推進にあたっては、NPO「シェアリングアース協会」(東京都東村山市)の藤本和典代表(ナチュラリスト、自然解説者)に監修・アドバイザーとして協力いただいています。各事業所のエコリーダーを対象としたフィールド研修では講師を務めていただき、庭木と生物の関係を図鑑にした「庭木セレクトブック」の発行では編集協力などで大きなサポートをいただいています。

さらに、社内研修ビデオの監修には環境NGO「環境市民」(京都府京都市)から、「木材調達ガイドライン」策定・運用にあたっては国際環境NGO「FoE Japan」(東京都豊島区)からアドバイスをいただくなど、環境保全活動の推進において、さまざまな形でNPO・NGOと協働して取り組んでいます。

関連リンク

- ▶ [「シェアリングアース協会」ホームページ](#) 
- ▶ [「環境市民」ホームページ](#) 
- ▶ [「FoE Japan」ホームページ](#) 

社会貢献プログラムの推進で

当社が従業員と共同して取り組む寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」において、「積水ハウス子ども基金」と「積水ハウス環境基金」の2つの基金を運営し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPO・NGOなどの活動を支援しています。支援先団体の選考にあたっては「(社福)大阪ボランティア協会」(大阪府大阪市)のスタッフにアドバイザーとして協力いただき、「積水ハウスマッチングプログラム」理事会での審議を経て決定しています。

関連項目

- ▶ [「積水ハウスマッチングプログラム」\(P.409\)](#)

社会起業家育成で

地域と連携を深めること、社会的課題をビジネスで解決していくこと、コミュニティビジネスを応援・育成していくことは、当社にとって関心の高い課題です。

NPO「edge(エッジ)」 (京都府京都市)が実施するビジネスプランコンペに特別協賛し、“社会起業家”をめざす若者の育成を支援しています。

関連項目

- ▶ [社会起業家をめざす若者の支援—「edge」への協賛\(P.406\)](#)

地域・まちづくりの取り組みで

当社総合住宅研究所の一画をNPO「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」 (京都府木津川市)に提供し、活動を支援しています。

関連項目

- ▶ [NPO「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」への協力\(P.407\)](#)

障がい者自立支援の取り組みで

障がい者の自立支援にあたっては、NPO「トゥギャザー」(奈良県奈良市)と協働して、取り組みを進めています。NPOのコーディネートにより、障がい者施設のネットワークが企業のニーズに応じています。障がい者が作ったSELP製品の協働企画、障がい者支援イベントなどを実施する中で、従業員の意識向上にも大きな役割を果たしています。

関連項目 [障がい者の自立支援\(P.401\)](#)

■ 社会起業家をめざす若者の支援—「edge」への協賛

社会的課題の解決に次世代の社会起業家をめざす若者の育成を支援

NPO・NGOや地域と連携を深めること、社会的課題をビジネスで解決していくこと、コミュニティビジネスを応援・育成していくこと。これらはCSRを推進するにあたって重要なテーマであり、当社にとっても関心の高い課題です。

当社は、2008年度から、NPO「edge(エッジ)」(代表理事:ダイバーシティ研究所 田村太郎氏)が実施するビジネスプランコンペに特別協賛という形で参加。応募されたプランの選考・評価などを担っています。

「edge」は2004年に発足。社会が抱えるさまざまな課題を、ビジネスの手法を使って解決する“社会起業家”を支援するNPOです。2010年度で7回目を迎えるビジネスプランコンペは、若者たちが社会課題の解決を目指して立案した事業プランを、先輩の社会起業家がメンター(助言者)となってサポートし、選考・評価を繰り返すもの。実際に起業できるプランに磨き上げていくブラッシュアップ型のコンペで、これまでに多くの社会起業のチャレンジを応援しています。

2010年度は、多くの応募の中から「社会起業家部門」19プラン、「学生チャレンジ部門」10プランが第1次審査を通過し、合宿形式の集合研修最終日に行う第2次審査でそれぞれ5プランが通過しました。その後、プレゼンを行う第3次審査(セミファイナル)の結果、各3組のファイナリストが決定し、2010年12月にファイナルプレゼンテーションを実施。「社会起業家部門」から、「あなたカフェウェディング『ココロの病気があったって』～働く・つながる・いきいき生きる！プロジェクト～」と「山科醍醐こども地域包括支援プロジェクト『こどもの生活・家族の就労サポート事業』」が優秀賞を、「学生チャレンジ部門」から「留学生支援プロジェクト 一中国と日本のかけ橋に一」が奨励賞を受賞しました。コンペが終了しても、起業や事業化のサポートは継続して行います。

関連リンク [edgeホームページ](#)

■NPO「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」への協力

すまい・まちづくり研究を支援しています

当社は、建築学者で京都大学名誉教授でもあった西山卯三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料約10万点を保管するNPO「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」(京都府木津川市、以下「西山文庫」)に、総合住宅研究所の一画を提供し、活動を支援しています。

我が国の大学では、優秀な研究者による研究資料(図書、図録、図面、写真、メモ等)は、当該研究者が研究室を引退すると、大学図書館や学部学科はおろか、当該研究室でさえ、それらを継承し、活用するという仕組みが十分とはいえず、そのため、その時代でしか入手することができない一級資料や原資料などは、世代交代によって大量に失われているのが現実です。とりわけ住まいや生活に関する資料は、それらが建築系学問としては未整備であった時代、そしてわが国が戦後の混乱の中、一から再生していった時代にあって、西山氏は自らの足で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の暮らしを取材し、膨大なスケッチや写真に残してこられました。こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料約10万点を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者に役立て、育てるということが「西山記念文庫」の使命であり、当社もそこに共感して物心両面での支援を当初から行っております。



当社総合住宅研究所内に設置
「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」

市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催に協力

2002年から開催している一般市民公開の「すまい・まちづくりフォーラム関西21」への協賛もその一つで、2010年度までに27回、本社のある梅田スカイビルや積水ハウス総合住宅研究所で開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催趣旨は住環境に関わる今日的な話題や歴史・文化的意味などについて検証して、21世紀のすまい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。そしてフォーラムを通して専門化した各セクター間の調和を目指すとともに、市民と専門家、ジュニア世代とシニア世代、公共と民間、メーカーとユーザー、都市とコミュニティといった新たなすまい・まちづくりの関係性を構築したいと願っています。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現をテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その道のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論の場となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。2011年は西山卯三氏生誕100年の年でもあり、9月に「西山卯三 生誕100年記念展覧会」の開催も予定しています。



(左)春のフォーラム
フォーラムには、毎年数多くの方にご参加頂きます。



(右)秋のフォーラム

■「すまい・まちづくりフォーラム関西21」開催テーマ>

年度	期	テーマ	講師
2008年	秋	いまジェーン・ジェイコブスを語る ～サステナブルなまちづくりの未来～	講師:窪田亜矢(東京大学工学部准教授)
	春	建築行為の可能性 ～建築家が語る、街、人、建築～ (納得工房すまい塾公開講座共同企画)	講師:遠藤秀平(建築家、神戸大学大学院教授)
2009年	秋	京都市の新景観行政 ～現場からのレポート～	講師:寺田敏紀(京都市景観創生監) コーディネーター:中林浩(神戸松蔭女子学院大学教授)
	春	まちづくりと地域づくりの新潮流	講師:松永安光(近代建築研究所代表取締役)

		～環境共生とコミュニティ形成の視点から～	
2010年	秋	芦屋市の景観行政	講師:山中健(芦屋市長) コメンテーター:安本典夫 コーディネーター:武山清明
	春	歴史とエコロジーからのまちづくり ～日伊の比較から～	講師:陣内秀信(法政大学教授)
		大阪のまちづくり ～歴史を読み解き、歴史を活かす～	講師:谷直樹(大阪市立大学教授)

※ 過去のフォーラムのテーマは、「西山文庫」ホームページ よりご覧いただけます。

関連項目	社会性目標と実績
------	--------------------------

関連リンク	「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」ホームページ
-------	-------------------------------------------------------------

■従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

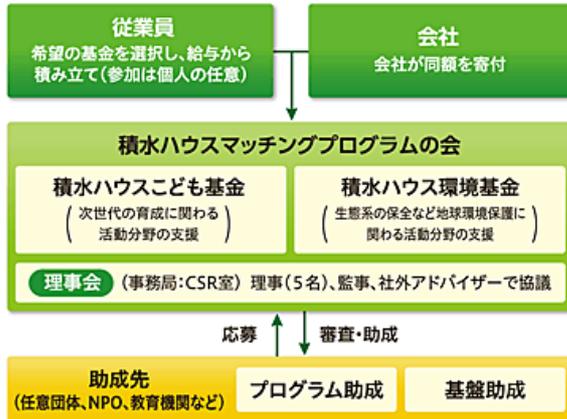
サステナブル社会の構築に寄与するNPOなど団体を支援しています

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約1700人)を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。

このプログラムは、従業員が給与から、希望する金額(1口100円)を積み立て、それに当社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「積水ハウスこども基金」と「積水ハウス環境基金」の2つの基金があり、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2010年度は、こども基金14団体875万円、環境基金16団体908万円、合計30団体1783万円の助成を実施しました。

■積水ハウスマッチングプログラムの仕組み



「こども基金」が第4回キッズデザイン賞を受賞

また、「積水ハウスこども基金」が、第4回キッズデザイン賞(ソーシャルキッズサポート部門)を受賞しました(主催:NPO 法人キッズデザイン協議会)。

「子育ての社会的な環境整備へ向けて、社員が自社関連業種 以外の分野への協力、参加し、CSRと本業が循環しているデザインがよい。NPO法人等の団体からのフィードバックがある点も評価できる。」と評価を頂きました。



会員への情報提供充実のため「新着情報メール通知サービス」を開始

さらに、会員と団体とのつながりを強化することを目的に、助成団体に関する最新情報(助成団体を実施する活動への参加、助成団体による活動報告会開催情報など)を会員に発信する「新着情報メール通知サービス」を開始する取り組みを開始しました。そして、当社のOB・OG専用サイトを通じて、マッチングプログラム助成団体への活動参加情報を提供する取り組みも開始しました。

「新しい公共」の一翼を担っていきます

今後も、さらに多くの従業員が「積水ハウスマッチングプログラム」に参加し、社会的活動を担う団体と関わり、社会的課題への理解を深め、本業と社会貢献活動の両面で、社会課題の解決に様々なスタイルで関わっていくことができるよう、「新しい公共」の一翼を担うべく、会員と団体を結びつけるための情報発信、活動報告会など等の活動の充実を図り、制度参加を促していきます。

■助成団体活動参加レポート その1

助成団体名:NPO法人CAPセンター・JAPAN

～地域でCAPワークショップを開こう～

2月6日、こども基金で助成しているNPO法人CAPセンター・JAPANさんによる助成事業「CAPおとなワークショップ」に参加しました。こどもへの暴力を防ぐために、わたしたちができることを、講義やワークショップを通じて、参加者同士がコミュニケーションしながら一緒に考えるワークショップです。

こどもへの暴力が、想像よりも多発している現状(18才未満、男子で5～6人に1人、女子で3～4人に1人が性的虐待を受けているなど)などを学んだり、自分が小学校4年生になり「こども向けワークショップ」を体験するなど、貴重な機会となりました。そして、虐待を防止するために大人にできることとして、「こどもか

ら相談を受けたときの対応「親の役割」など、こどもとのコミュニケーションのありかたについて学びました。

活動に参加したことで、マッチングプログラムが社会課題を解決するために活動している団体を支援していることを強く実感することができました。多くの方が「積水ハウスマッチングプログラム」に加入することが、誰もが暮らしやすい社会づくりに貢献することにつながると感じました。(大阪設計室 前原和美さん)



「こども向けワークショップ」も体験。劇を取り入れ、こどもが「暴力」について理解を深めることができるように工夫されていました。



参加者同士も、活発に意見交換を実施。学んだこと、感じたことを口に出し、理解を深めることができました。

■ 助成団体活動参加レポート その2

助成団体名：NPO法人アサザ基金

助成事業名：～アサザプロジェクト：植生帯の再生と外来魚駆除・利用循環型事業の展開～

アサザ基金さんでは茨城県の霞ヶ浦・北浦の生態系を乱している大量の外来魚を捕獲しています。その魚の一部は魚粉などに加工され、肥料や飼料として霞ヶ浦周辺の農業に利用されています。

今回はその外来魚の中でも最大級の「ハクレン」を加工場へ運搬するトラックに積み上げるお手伝いをしました。もちろん水揚げしてくれたのは地元の漁師さんです。中国からやってきた「ハクレン」は成魚では体長約1m、体重約8kgにまで成長する巨体の持ち主です。積み上げにはとても力がいりましたが、当日は約6t分(750匹)を積み込むことができました。

水揚げされた「ハクレン」は魚粉肥料に加工されます。そして、その肥料で育てられる野菜は「湖が喜ぶ野菜」と名付けられ、一般向けに販売されるそうです。

実際に作業に参加することで、アサザ基金さんの活動が霞ヶ浦の生態系保全(外来種駆除)、水質浄化(水質汚濁物質取り出し)、地域経済の活性化(漁場再生による漁業活性化、農作物流通)等にたいへん貢献し、循環型社会の実現に向けての有意義な活動となっていることを理解することができました。

(常葉シャーマゾン支店 瀬々俊郎さん)



漁師さんと一緒に
外来魚「ハクレン」を水揚げ



全部で約6トン(750匹)

■ 2010年度の助成団体

● こども基金(プログラム助成)

	団体名・プログラム名	助成金額
	NPO法人 アトピッツ地球の子ネットワーク ㊦ アレルギーの人のための夏休み環境教育キャンプ	1,000,000円
	NPO法人 ADRA Japan ㊦ パール口唇口蓋裂医療チーム派遣事業	1,279,000円

	NPO法人 CAPセンター・JAPAN ㊦ 「子どもが安心して、自信を持って自由に生きる」まちづくりキャンペーン～地域でCAPワークショップを開こう～	425,000円
	NPO法人 国境なき医師団日本 ㊦ 栄養失調児治療プログラム／はしか予防接種	1,000,000円
	NPO法人 ワールド・ビジョン・ジャパン ㊦ バングラデシュ人民共和国モラザニ小学校建設支援事業	3,250,000円

●環境基金(プログラム助成)

	団体名・プログラム名	助成金額
	NPO法人 アサザ基金 ㊦ ～アサザプロジェクト:植生帯の再生と外来魚駆除・利用循環型事業の展開～	1,000,000円
	NPO法人 白神山地を守る会 ㊦ 白神山地におけるブナ植樹を通じた低炭素社会の実現と生物多様性実現のための事業	650,000円
	NPO法人 日本国際ボランティアセンター ㊦ 「生態系に配慮した農業による生計改善」プログラム	2,000,000円
	公益社団法人 日本国際民間協力会(NICCO) ㊦ マラウイにおけるモリンガ・ジェトロファ・ニーム等を利用した「住民による自然資源の持続的利用」支援プロジェクト	1,300,000円
	NPO法人 みどり大阪 ㊦ 姥ヶ池の再生と周辺森林の整備事業	830,000円
	NPO法人 緑の地球ネットワーク ㊦ 多様性のある森林再生のための自然植物園運営事業	1,300,000円

● 基盤助成(20万円を助成)

こども基金	環境基金
NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN <input type="checkbox"/> NPO法人 子どもセンターあさひ <input type="checkbox"/> NPO法人 子どもとアーティストの出会い <input type="checkbox"/> NPO法人 子どもの村福岡 <input type="checkbox"/> NPO法人 女性エンパワーメントセンター福岡 <input type="checkbox"/> NPO法人 地域生活支援ネットワークきらり <input type="checkbox"/> NPO法人 東京コミュニティスクール <input type="checkbox"/> NPO法人 日本ホスピタル・クラウン協会 <input type="checkbox"/> NPO法人 Vハート(ベトナム障がい児者支援ネットワーク) <input type="checkbox"/>	NPO法人 OWS <input type="checkbox"/> NPO法人 環境教育技術振興会 <input type="checkbox"/> NPO法人 子どもの森 <input type="checkbox"/> NPO法人 珊瑚舎スコーレ <input type="checkbox"/> 自然遊学館わくわくクラブ NPO法人 シニア自然大学校 <input type="checkbox"/> NPO法人 地球と未来の環境基金 <input type="checkbox"/> 環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部 <input type="checkbox"/> NPO法人 プロジェクト保津川 <input type="checkbox"/> ベッタ会 <input type="checkbox"/>

■ これまでの助成実績

	こども		環境		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2006年度	102万円	2	95万円	2	197万円	4
2007年度	262万円	4	235万円	4	497万円	8
2008年度	543万円	7	339万円	5	882万円	12
2009年度	872万円	7	760万円	8	1,632万円	15
2010年度	875万円	14	908万円	16	1,873万円	16

■ 過去の助成団体

2009年度助成団体 2008年度助成団体 2007年度助成団体 2006年度助成団体

関連項目	<input checked="" type="checkbox"/> 社会性目標と実績(P.424) <input checked="" type="checkbox"/> 社会貢献活動(P.169)
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

六甲アイランド(神戸市東灘区)と深い関わりのある当社とP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立しました。NPOなど多くの団体の活動を支援しており、2010年度は38件の活動に合計2200万円を助成し、これまでの助成金額累計は3億2578万円となりました。

■ 基金の仕組み



■ 助成対象事業

神戸市における次のような事業または活動を行っている団体等からの助成金交付申請を、毎年12月から1月に受け付け、基金運営委員会において慎重なる審査の結果助成が決定した団体等に助成金与えられます。

国際コミュニティづくり事業	文化的な都市環境づくり事業	広報・調査・研究活動
在日外国人や新たに来日した外国人に対する日常生活ガイダンス活動、地域住民との交流活動、情報交換活動等々。	私有地(個人・法人所有を問わない)でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業(ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等)	国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催および調査、研究活動等。
ただし、営利を目的とする事業、政治活動、宗教活動は助成の対象から外れます。		

■ 2010年度助成事業一例



NGO神戸外国人救援ネット
事業名:外国人のための総合相談事業および問題解決のための援助とフォローアップ活動
日本で生活する外国人が抱える、福祉・社会保障・医療・労働・法律など様々な分野での問題解決サポートを目的に、専門性の高い相談を多言語で受け付ける活動を実施しています。相談受け付け後も、同行、通訳などの援助とフォローアップを実施し、外国人が安心して生活することができる社会の実現を目指す事業です。



六甲アイランドを美しい街にする会
事業名:六甲アイランド チューリップ祭と関連事業
「六甲アイランド」を汚れない、清潔で快適なモラルとマナーを備えた、心から誇りに思える美しい街にするための活動を行うことを目的に活動を展開しています。島内約3.5万本のチューリップは皆様に親しまれて10年になります。花は「楽しむ」だけでなく、花生産農家の方々と島民の交流を生みだします。また、小学生の農業体験、病院・施設などへの球根配布、島内ボランティア有志による「植え付け」などの協働作業を通して、外国人学校の子どもたちとの国際交流など、街の活性化に寄与しています。

■ 2010年度助成先一覧

国際コミュニティづくり事業

団体名	事業内容
神戸市立六甲アイランド高等学校	国際性と地域性を育む教育活動の実践
神戸市東灘防火安全協会	東灘救急フェア2010
あじさいコンサート実行委員会	～未来へ～あじさいコンサート
RICふれあい会館	「外国人による講演会2010」&「住民トーク」

OIDFA世界レース会議(国際機関)&日本評議委員	第14回OIDFA世界レース会議2010神戸
東灘アートマンス実行委員会	東灘アートマンス
W・Sひょうご	外国籍DV被害者への支援活動
RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー(地域図書館)の運営・管理
神戸市立小磯記念美術館	RICアートカプセル2010
RIC音楽工房	第16回みどりの風コンサート
神戸東灘文化協会	国際文化芸術交流
こうべ海の盆踊り実行委員会	こうべ海の盆踊り2010「盆踊りコンテスト」・「国際交流ブース」・「盆踊り練習会」
六甲アイランドを美しい街にする会	六甲アイランドチューリップ祭と関連事業
NGO神戸外国人救援ネット	「外国人のための総合相談事業および問題解決のための援助とフォローアップ活動」
Community House Information Center(CHIC)	コミュニティハウスアンドインフォメーションセンター
神戸東おやこ劇場	「のびのびわくわく・楽しいことしよう会」～神戸東おやこまつりの開催・地域講演・講習会
NPO法人神戸定住外国人支援センター	在日外国人失業層のためのパソコン職業訓練事業
被災地学生交流事業会	被災地学生交流事業
アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性への生活情報発信と相談事業
NPO関西ブラジル人コミュニティCBK	ラテンアメリカネットワーク作り
多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなで作る文化と共生社会(We Are the World編)
ミックスルーツ関西	多ルーツ社会対話促進事業(MRSDP)
六甲アイランドCITY自治会	「RICサマーイブニングカーニバル2010」
六甲アイランド地域振興会～手作りこいのぼりプロジェクト	「六甲アイランドコイノボリ手染め大会」
六甲アイランド地域振興会～ウェルカムフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドウェルカムフェスティバル2010」
六甲アイランド地域振興会～六甲アイランド能プロジェクト	「六甲アイランド能2010～能・狂言のタベ」
六甲アイランド地域振興会～六甲アイランド提灯プロジェクト	「六甲アイランド提灯祭」
六甲アイランド地域振興会商業部会 六甲アイランドハロウィンフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドハロウィンフェスティバル&収穫祭」
NPO法人実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際交流サロン事業
被災地市民交流会	被災地市民交流事業
NPO法人国際教育文化交流協会	生涯学習国際文化コース(国際理解地域交流講座)
ワールドキッズコミュニティ	多文化な背景を持つ子どもたちの食育プロジェクト

文化的な都市環境づくり事業

団体名	事業内容
六甲アイランド地域振興会～リサイクル乾燥芝土壌を活用した地域緑化の促進～	「リサイクル乾燥芝土壌を活用した地域緑化の促進」
NPO法人総合文化推進機構	KOBE ALOHA BREEZE

広報・調査・研究活動事業

団体名	事業内容
東灘市民放水大会実行委員会	東灘市民放水大会
六甲アイランドまちづくり協議会	「六甲アイランドの街路に愛称をつける」
六甲アイランド地域振興会 ～六甲アイランドCITY マッププロジェクト	「六甲アイランドCITYマップ」制作事業
神戸をほんまの文化都市にする会	神戸のウォーターフロントの市民的整備・活性化策 の検討・提案事業

関連項目 [社会性目標と実績](#)

■ 災害義援金

2010年度は、「宮崎県口蹄疫」被害者義援金など551万円を寄付

災害発生時には多くの人々の協力が必要です。当社は、国内外で災害が発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が中心となり当社グループに災害義援金への協力を呼びかけています。

2010年度は、「チリ地震」、「中国青海省地震」、「宮崎県口蹄疫」に関して募金を呼びかけ、当社グループの事業所、関係会社および協力工事店から総額551万6199円が寄せられました。

「チリ地震」、「中国青海省地震」義援金は日本赤十字社に、「宮崎県口蹄疫」被害者義援金は社会福祉法人宮崎県共同募金会に寄付しました。



7月2日、積水ハウスグループを代表して宮崎支店 山城支店長(左)より宮崎県福祉保健部 田原次長(右)へ義援金を寄付

東日本大震災ではOB・OGにも義援金を呼びかけ

また、2011年3月に発生した「東日本大震災」では、従業員のみならずOB・OGサイト「Net-OB・OGクラブ」を通じて、OB・OGにも義援金を呼びかけ、合計 約4800万円の義援金が集まりました。「東日本大震災」義援金は、「災害発生地域が広範であること」「必要なときに、必要な支援を、必要な方々に、迅速に行うこと」を方針として、公的団体、活動団体に寄付を実施しています。

■ 2010年度の義援金実績

義援金名	金額(単位:円)
「チリ地震」義援金	2,065,041
「中国青海省地震」義援金	1,504,527
「宮崎県口蹄疫」被害者義援金	1,946,631
総額	5,516,199

■ 過去の実績

	義援金名	金額(単位:円)	総額
2005年度	米国ハリケーン「カトリーナ」被災者義援金	1,915,402	6,787,346
	「台風14号」被災者義援金	2,765,565	
	「パキスタン北部地震」被災者義援金	2,106,379	
2006年度	ジャワ島中部地震」被災者義援金	2,734,093	2,734,093
2007年度	「能登半島地震」被災者義援金	5,338,834	11,312,132
	「新潟県中越沖地震」被災者義援金	5,973,298	
2008年度	「ミャンマー・サイクロン」義援金	3,229,911	6,535,111
	「中国大地震」義援金	3,305,200	
2009年度	「サモア地震・津波災害」義援金	1,032,463	5,844,105
	「スマトラ島沖地震」義援金	1,064,498	
	「ハイチ地震」義援金	3,747,144	

関連項目 ■ 社会貢献活動(P.169)

■ チャリティフリーマーケットの実施

フリーマーケット、チャリティバザーの売上金を社会的活動を担う団体などに寄付しています

全国の事業所で、チャリティフリーマーケット、チャリティバザーなどを実施し、売上金を社会的活動を担う団体などに寄付しています。

いわき支店では、従業員持ち寄り品のバザーを開催し、売上金を「赤い羽根共同募金」に寄付しました。福山支店では、オーナー様感謝祭でのバザー売上金の一部から、地域小学校にデジタルカメラを寄贈しました。

本社では1994年から、(社福)ノーマライゼーション協会(大阪市東淀川区)を後援するノーマライゼーションクラブ主催のフリーマーケットに参加しています。当社従業員有志が、大阪を中心とした近隣事業所に呼びかけ、家庭で眠っている物を持ち寄って出店し、その売上金をノーマライゼーション協会に寄付して高齢者・障がい者の自立支援に役立てていただいています。2010年度は12万5750円を同協会に寄付しました。

売上金の一部を寄付する自動販売機を設置する事業所も増えており、様々な形での寄付を実施しています。



フリーマーケットは大盛況。多くの方に出展品をご購入頂きました。



新大阪・フリーマーケットの売上金はノーマライゼーション協会に寄付させて頂き、高齢者・障がい者の自立支援に役立てて頂きます。

■ チャリティイベントなどによる寄付実績

2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
392万円	402万円	282万円	474万円

関連項目 [社会貢献活動\(P.169\)](#)

■ こどもの日チャリティイベントへの協力

外国の紙幣・コイン、書き損じハガキを集め、日本ユニセフ協会に24万円を寄付しました

5月4日・5日(こどもの日)の両日に開催されるチャリティイベント「困難に直面している世界の子どもを救おう!」は、「海外旅行で余った紙幣やコイン、書き損じのハガキなど机やタンスで眠っているものを役立てられないか?」という発想から生まれたチャリティ活動です。(財)日本ユニセフ協会大阪支部などと協働で2004年に始まり、当社グループ会社の積水ハウス梅田オペレーション(株)が事務局を務めています。

当社グループは継続的にこのイベントに参加し、全国のグループ会社の従業員から外国の紙幣・コイン、書き損じハガキや未使用切手を集め、(財)日本ユニセフ協会に寄付しています。2010年度、当社グループからの寄付総額は、約24万円となりました。

これらの寄付は、ユニセフが150以上の国と地域で実施する子どもたちの栄養改善、安全な飲み水の確保、衛生施設の設立、初等教育の普及、子どもの保護、緊急救援などの支援活動に大切に使われます。

当社グループでは次回の参加に向けて、イベント後も各事業所が収集を継続しています。



集まった外国の通貨、未使用切手、ハガキなど
日本ユニセフ協会へ寄贈



子どもたちがイベントを盛り上げてくれました

関連項目 [■ 社会貢献活動\(P.169\)](#)

■ 各地へ広がる収集ボランティア

ペットボトルキャップやプルタブ・アルミ缶などを収集し、ワクチンや車いすに

「誰もができる社会貢献」を合言葉に、収集ボランティア活動が全国各地に広がっています。

ペットボトルキャップやプルタブ・アルミ缶、使用済み切手などを収集して各種団体に寄贈しています。

ペットボトルキャップは、主にNPO「エコキャップ推進協会」(神奈川県横浜市)に寄贈。同協会が再資源化によって得た売却益をNPO「世界の子供にワクチンを 日本委員会(JVC)」(東京都千代田区)に寄付し、発展途上国の子どもたちにワクチンを贈るために使われています。

また、国際協力NGOジョイセフが実施する「思い出のランドセル活動」への協力(北関東営業本部)や、N GOわかちあいプロジェクトが実施する、古着をタイ・ミャンマーの難民キャンプに送付する活動への協力(積和建設浜松)、「スマイルアフリカプロジェクト」の趣旨に賛同し子ども靴を集め寄付する活動への協力(兵庫シャーウッド住宅支店)など、様々な収集ボランティアが実施され、活動の幅が広がるとともに従業員の社会貢献意識も一層向上しています。

現在では、全国各地の事業所や社外にも協力の輪が広がり、収集量が増加しています。今後も力を合わせて取り組みを継続し、社会貢献に努めていきます。



関西営業本部では、ポスターを作成し、収集ボランティアへの参加を呼び掛けています



段ボール12箱分の古着をタイ・ミャンマー難民キャンプに届けました(関和建設浜松)

■ 地域イベントの支援

地域の一員として地域イベント開催および参加・協力

当社は地域の一員として、地域イベントの開催および参加・協力をしています。

関東工場においては保有しているグラウンドを活用し、スポーツを通じた地域との親睦やコミュニティの醸成を目的に「夢工場杯 小学生サッカー大会」を2000年から毎年開催しています。近隣事業所も参加チーム募集や賞品提供などで協力しています。

堺支店では、堺バスケットボール協会を通じた小学生・ミニバスケットボール大会、グラウンドゴルフ協会とともにグラウンドゴルフ大会を開催して、地域のスポーツ振興に協力しました。いわき支店、秋田支店では展示場を開放し、陶芸教室、ベビーマッサージ教室、消しゴムはんこ教室などの開催に協力しています。また、本社のある梅田スカイビルで毎年開催している「盆踊り大会」でも、地元自治会、周辺地域の方々との友好を深めるとともに、会場提供だけでなく、企画、設営、運営に協力するなど、2010年度も全国の事業所で多くの従業員が地域のイベントに参加・支援しました。

今後も当社は、スポーツ振興や祭事の支援を通じて地域とのつながりを大切にしていきます。



関東工場グラウンドでの「夢工場杯 小学生サッカー大会」は2010年で11回目の開催となりました。

■ 多彩な国際交流イベントの開催

「ふれあい」と「共生」をテーマに外国文化などを紹介

グループ会社の積水ハウス梅田オペレーション(株)は、各国の領事館と協働し、外国文化を紹介するさまざまなイベントを大阪市の梅田スカイビルで開催し、「ふれあい」と「共生」をテーマに国際交流を図っています。

中でも、メキシコ大使館との共催による「フィエスタ・メヒカナ(メキシコ祭)」は、2010年度で14回目の開催となり、西日本各地からラテンファンが訪れる日本最大級のメキシコの祭りとして、国際集客都市大阪での代表的なイベントへと成長しました。2010年度は9月18日～20日に開催されました。会場では、自国の言葉で話す人々の交流が盛んで、国際交流の手助けができることに、参加した従業員は喜びを感じています。なお、積水ハウス梅田オペレーション(株)は、在大阪メキシコ合衆国名誉領事館(メキシコ名誉領事:和田 勇 積水ハウス(株)会長兼CEO)の業務窓口として、国際交流と相互理解の架け橋として協力しています。

また、ドイツ連邦共和国総領事館と協働した「ドイツ・クリスマスマーケット」は11月19日～12月26日に開催されました。期間中会場はドイツのマーケットそのもので、特にライトアップされた夜になるとシンボルの世界最大級のクリスマスツリーを見ようと多くの人で賑わいます。

世界各国の情報を発信するイベントを多数開催し、国際交流の発展に貢献しています。



「フィエスタ・メヒカナ2010」
メキシコ民族音楽がイベントを盛り上げました。



「ドイツ・クリスマスマーケット2010」
世界最大級のツリーをはじめ、多数のイルミネーションが
素敵なクリスマスを演出します。



■ 社会貢献活動社長表彰

社会貢献意識の高い企業文化を醸成するために、従業員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰し、社内に周知しています。

2010年度は7件の応募があり、本業である住まいづくりに関するノウハウを活かした社会貢献活動、地域住民と従業員が連携したボランティアによる社会貢献活動、創意と工夫のある地域に密着した社会貢献活動など、多彩な取り組みが集まり、以下3つの活動が表彰されました。その1つ「ジョイセフ『思い出のランドセル募金』」は、3年前から実施されてきた活動で、当社グループ従業員はもとより、家族、協力工事店の職方さん、学校関係者、当社オーナー様からも支援が寄せられ、1000人以上の方が参加する活動となりました。

社長特別賞は2月の全国営業会議の場で発表し、全国幹部の前で社長より表彰状の授与を行いました。惜しくも社長特別賞に届かなかった活動には、奨励と継続的發展を期待し感謝状を贈りました。これらの活動は社内誌や社内ホームページなどで従業員に広く紹介し、社会貢献意識の高揚を図っています。



ジョイセフ「思い出のランドセル募金」
400個のランドセルが集まりました



巣箱作り教室
活動開始当初から1500個以上をつくりました

■ 2010年度 受賞活動

活動名	事業所名
ジョイセフ「思い出のランドセル募金」	北関東営業本部(50周年推進委員会、次世代行動委員会)
埼玉県と一体となった環境保全活動	埼玉営業本部(環境取組推進グループ「グリーン委員会」)
巣箱作り教室	いわき支店 巣箱作りプロジェクト
CSR活動を通じ、社内活性と人材育成	積和建設四国(株)

■ 過去の受賞活動

	受賞活動名	事業所名
2009年度(応募総数:8件)	和歌山県が推進する企業の森(積水ハウスの森)における森林保全活動	和歌山支店
	Dr. フォレストからの手紙	環境推進部、設計部、グリーンテクノ積和関西他
	親子で楽しむ自然体験「田植え、稲刈り、5本の樹セミナー、隣人祭り」	長崎支店
2008年度(応募総数:7件)	静岡住まいの夢工場 教育貢献活動	浜松支店、静岡工場
	「夢工場杯」小学生サッカー大会	関東工場
	納得工房における「すまい塾 こだわり講座」の運営	納得工房、技術研究所、大阪設計部
2007年度(応募総数:12件)	地域清掃活動	静岡工場
2006年度(応募総数:6件)	福知山支店エリアにおける、ボランティア活動・地域貢献活動	福知山支店